別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記5の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和5年度報告）

和歌山県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

県内30市町村全てで被害防止計画が策定されており、うち12市町村（6協議会）が令和5年度で計画が終期を迎えるため今回の評価報告の対象となっている。

2　事業効果の発現状況

本県では、各地域（県振興局単位）に市町村、農協、猟友会など関係機関が参画した協議会を設置し、実施隊等による有害捕獲活動及び追い払い活動、捕獲檻の導入、防護柵の設置等の取組を実施している。
令和3～5年度の県下全域の有害捕獲頭数（緊急捕獲事業）はイノシシ捕獲数が豚熱蔓延の影響により捕獲数が減少があったが、その後徐々に回復傾向になった。3ヶ年合計でイノシシは21,809頭、シカは36,498頭、サルは2,723頭の捕獲となった。
加えて、捕獲圧をさらに高めるには人材育成が重要なため、鳥獣害対策アドバイザー研修、捕獲技術向上研修（銃・わな）などを継続的に開催してきた。
令和5年度の農作物被害額は2.49億円と令和3年度からほぼ横ばいであるが、イノシシ豚熱発生が減少傾向で有り今後残存個体の回復が見込まれるため、農作物被害等の更なる減小を目指し、有害捕獲を中心とした総合的な被害防止対策を実施していく。

3　被害防止計画の目標達成状況

県全体での被害額は平成30年度の3.02億円に対して、令和5年度は2.49億円と減小傾向にある。
市町毎の被害防止計画の達成率については、今年度で計画が終了して評価対象となっている12市町村・6協議会のうち1市・1協議会を除きほぼ達成（達成率70%以上）となった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

＊目標と実績にかかる各評価額は、F列対象鳥獣欄の対象鳥獣の順に並んでいます（最下段は合計値）。

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積（ha） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
和歌山市鳥獣被害対策協議会	和歌山市	R3	イノシシ アライグマ アナグマ ハクビシン	推進事業 捕獲調査活動、捕獲に必要な機	206人／日 一式				実施隊による捕獲や被害状況、生息状況調査等の活動を実施し、農林水産物被害の軽減に繋がった。	4,653 3,681 0 0	4,175 2,126 662 4	4,025 1,916 654 4	131.4 113.5 98.8 100.0	1.82 0.48 0.00 0.00	1.54 0.26 0.09 0.00	1.36 0.26 0.07 0.00	164.3 100.0 77.8 22.2	豚熱の流行もあったが、被害を軽減することが出来た。人馴れして、集落まで降りてくるイノシシが多数あり、捕獲に苦労したが、全ての個体を捕獲した。また、有害捕獲の実施や防護柵の設置等により、被害が軽減された地域がある一方、防護柵未設置集落では、被害が深刻化しており、正しい知識と対処法を粘り強く広報していく。今後も鳥獣被害防止について総合的に取り組んでいきます。	国庫事業等を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、実施隊員による見廻りにより、被害が減少しているとの声がある。今後も対策を継続されたい。 和歌山県鳥獣保護管理員　和歌山市担当　　行平　登美一	市で最も農作物被害の多いイノシシと次に多いアライグマによる被害が金額・面積ともに減少し、目標に到達した。市での捕獲対策を中心とした細やかな対応が功を奏しているもの思われ、協議会での活動に一定の効果があったと評価致します。 　一方で、アナグマなどの中型獣類や鳥類の被害は一定量発生しているため、捕獲のみならず、防護柵の設置や獣類にとって魅力の無い場所づくりなど総合的な被害対策に取り組んでもらう事が必要と考えます。
		R4	カラス類 ムクドリ カワウ	推進事業 捕獲調査活動、捕獲に必要な機	197人／日 一式					0 0 4,500 12,834	373 160 4,050 11,550	368 151 4,000 11,118	98.7 94.4 111.1 133.6	0.00 0.00 0.00 2.30	0.13 0.05 0.00 2.07	0.04 0.02 0.00 1.75	30.8 40.0 #DIV/0! 240.8			
		R5		推進事業 捕獲調査活動、捕獲に必要な機	200人／日 一式															
和歌山市 （和歌山市鳥獣被害対策協議会）	和歌山市	R3	イノシシ アライグマ アナグマ ハクビシン	緊急捕獲事業 イノシシ	（頭） 217				捕獲、防護柵、追い払いにより農林水産物被害の軽減に繋がった。イノシシに関しては豚熱により生息数の減少があった。	4,653 3,681 0 0	4,175 2,126 662 4	4,025 1,916 654 4	131.4 113.5 98.8 100.0	1.82 0.48 0.00 0.00	1.54 0.26 0.09 0.00	1.36 0.26 0.07 0.00	164.3 100.0 77.8 22.2	有害捕獲の実施や防護柵の設置等により、長期的には被害は減っている。一方、防護柵未設置集落では、被害があり、今後も鳥獣被害防止について総合的に取り組んでいく。	国庫事業等を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、実施隊員の見廻りにより被害が減少しているとの声がある。今後も対策を継続されたい。 和歌山県鳥獣保護管理員　和歌山市担当　　行平　登美一	市で最も農作物被害の多いイノシシと次に多いアライグマによる被害が金額・面積ともに減少し、目標に到達した。市での有害捕獲対策に熱心に取り組んだ事に一定の効果があったと評価致します。 　一方で、アナグマなどの中型獣類や鳥類の被害は一定量発生しているため、捕獲のみならず、防護柵の設置や獣類にとって魅力の無い場所づくりなど総合的な被害対策に取り組んでもらう事が必要と考えます。
		R4	カラス類 ムクドリ カワウ	緊急捕獲事業 イノシシ	（頭） 776					0 0 4,500 12,834	373 160 4,050 11,550	368 151 4,000 11,118	98.7 94.4 111.1 133.6	0.00 0.00 0.00 2.30	0.13 0.05 0.00 2.07	0.04 0.02 0.00 1.75	30.8 40.0 #DIV/0! 240.8			
		R5		緊急捕獲事業 イノシシ	（頭） 636															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積(ha) 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
かつらぎ町鳥獣被害防止対策協議会	かつらぎ町	R2	イノシシ ニホンジカ サル アライグマ カラス カワウ・サギ類	推進事業 イノシシ・シカ用捕獲檻 電気止刺機 デジタル無線機	 22基 8個 50台				個体数の増減による影響はあるが、計画どおり捕獲を目指し、一定の効果を上げていると考えている。	15,049 1,304 31 11,780 6,222 4,992	10,530 910 20 8,250 4,360 3,490	5,068 1,837 131 6,325 9,008 3,500	220.9 −135.3 −909.1 154.5 −149.6 99.3					【被害額が減少しない原因】 イノシシでは、令和2年度に豚熱と考えられる影響で頭数が激減してから、その後ゆっくりと個体数は増加傾向である。 ニホンジカでは、捕獲頭数は増えているものの個体数の増加は進んでおり、山間部を中心に被害は増加している。 サルでは、町内河北の一部地域を中心とした行動をとっており、その地域周辺で農作物の食害が増加した。 アライグマでは、モモやブドウなどの単価の高い果実の被害が多数発生したことから被害額が増加した。 カラスでは、果樹園地を中心に捕獲しても他の個体がすぐに侵入している。また、銃所持者の高齢化が進んでおり、個体数の増加と被害範囲が広く、被害がやや増加することとなった。 カワウ・サギ類では、積極的な捕獲活動で被害額は減少した。 今回未達成となった理由としては、ニホンジカとカラスによる被害が大きく影響していると考える。 【今後の対策等】 実施主体である実施隊員は高齢化傾向ではあるが、猟友会の新規加入者もあり隊員数はほぼ維持できている状況であるため、引き続き隊員数の確保に努める。 イノシシ、ニホンジカでは、捕獲檻、くくり罠、電気止刺機の配布を行い、捕獲数の増加を目指す。併せて、県単防護柵の推進により被害防止を行う。 サルの被害対策として、令和4年度から1年を通して有害を出し、いつでも捕獲が行えるようにしている。捕獲檻の設置や実施隊銃器所持者との連携による捕獲活動を行う。 アライグマでは、狩猟免許を有しない者に対して従事者研修を行うとともに捕獲檻の貸出を行うことで、ある程度捕獲頭数の維持はできている。 カラス、カワウ・サギ類では、捕獲を進めるうえで銃所持者の高齢化が課題となっているため、担い手の育成確保に努める。 【令和5年度の実績を踏まえた再評価】 （イノシシ・ニホンジカ） 捕獲頭数については、令和4年度に比べ減少したが、園地付近での加害個体を中心に捕獲圧を高めることができたため被害は減少した。併せて、農家による園地点検や防護柵確認、自発的な追い払い活動により農作物被害を減少させることができた。 （アライグマ） 被害園地付近の捕獲が進み、令和4年度に被害の多かったモモやブドウの被害を抑えることができた。 （サル） はぐれザル数頭のうち1頭捕獲ができた。収穫時期を中心に地域住民によるバクチク等での追い払い活動が行われた。目標値には到達しなかったが令和4年度と比べ、大きく被害を減少させることができた。 （カラス） 追い払いや忌避グッズ等の活用により、目標値には到達しなかったが令和4年度と比べ被害を減少させることができた。 （カワウ・サギ類） 追い払いなどが行われたが、銃器所持者は高齢化に伴う減少傾向であり、水産被害は増加する結果となった。 （全体） 捕獲檻は令和4年度で各地区へ相当数の配備を進め、R5にかけてイノシシを中心とした被害額の減少に寄与したと考えられる。そのため令和5年度では新規隊員用に捕獲檻を2基、経験値のあるわな隊員にくくり罠を28基、わな隊員に用に電気止め刺し器を51基購入し、新たに配備を行った。令和6年度から本格的に運用している。	ここ数年の実績でも、多くのイノシシ・ニホンジカを捕獲していただいておりますが、個体数の増加等により依然として農作物等の被害は発生しているところです。 農作物等の被害の軽減のために、今後も地域住民と連携を図りながら、積極的な捕獲活動を行っていただきたいと考えます。 かつらぎ町農業委員会会長　里神賢幸	イノシシおよびアライグマの被害額が大幅に減少し、目標に到達した。またシカ、サル、カラスについては、目標値には達しなかったものの、昨年度実績に比べ大きく減少し、被害金額全体での目標達成になったことから、前年度の改善計画に係る取組に一定の成果がみられたと考えられる。 一部の獣種ではまだ、目標値に到達していないものもあるため、引き続き、地域の猟友会員や農業者と連携し、鳥獣の特性に応じた対策（防護柵の設置推進と、シカでは捕獲の一層の強化、カラスは餌場の除去や不要果樹の伐採、囲いわなでの捕獲、サルは有害個体の捕獲の強化を進めて頂きたい。
										39,378	27,560	25,869	114.3	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!			
		R3		推進事業 イノシシ・シカ用捕獲檻	 32基															
		R4		推進事業 イノシシ・シカ捕獲檻	 21基															
		R5		推進事業 イノシシ・シカ用捕獲檻 くくり罠 電気止刺機	 2基 28基 51基															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積(ha) 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
かつらぎ町（かつらぎ町鳥獣被害防止対策協議会）	かつらぎ町	R2	イノシシ	緊急捕獲事業	（頭）				個体数の増減による影響はあるが、計画どおり捕獲を目指し、一定の効果を上げていると考えている。	15,049	10,530	5,068	220.9					令和4年度におけるかつらぎ町での評価について、 【被害額が減少しない原因】 イノシシでは、令和2年度に豚熱と考えられる影響で頭数が激減してから、その後ゆっくりと個体数は増加傾向である。 ニホンジカでは、捕獲頭数は増えているものの個体数の増加は進んでおり、山間部を中心に被害は増加している。 サルでは、町内河北の一部地域を中心とした行動をとっており、その地域周辺で農作物の食害が増加した。 アライグマでは、モモやブドウなどの単価の高い果実の被害が多数発生したことから被害額が増加した。 カラスでは、果樹園地を中心に捕獲しても他の個体がすぐに侵入している。また、銃所持者の高齢化が進んでおり、個体数の増加と被害範囲が広く、被害がやや増加することとなった。 カワウ・サギ類では、積極的な捕獲活動で被害額は減少した。 今回未達成となった理由としては、ニホンジカとカラスによる被害が大きく影響していると考える。 【被害を減少させるために講じた対策と進める上での課題】 実施主体である実施隊員は高齢化傾向ではあるが、猟友会の新規加入者もあり隊員数はほぼ維持できている状況であるため、引き続き隊員数の確保に努める。 イノシシ、ニホンジカでは、捕獲檻、くくり罠、電気止刺機の配布を行い、捕獲数の増加を目指す。併せて、県単防護柵の推進により被害防止を行う。 サルの被害対策として、令和4年度から1年を通して有害を出し、いつでも捕獲が行えるようにしている。捕獲檻の設置や実施隊銃器所持者との連携による捕獲活動を行う。 アライグマでは、狩猟免許を有しない者に対して従事者研修を行うとともに捕獲檻の貸出を行うことで、ある程度捕獲頭数の維持はできている。 カラス、カワウ・サギ類では、捕獲を進めるうえで銃所持者の高齢化が課題となっている。 【令和5年度の実績を踏まえた再評価】 （イノシシ・ニホンジカ） 捕獲頭数については、令和4年度に比べ減少したが、園地付近での加害個体を中心に捕獲圧を高めることができたため被害は減少した。併せて、農家による園地点検や防護柵確認、自発的な追い払い活動により農作物被害を減少させることができた。 （アライグマ） 被害園地付近の捕獲が進み、令和4年度に被害の多かったモモやブドウの被害を抑えることができた。 （サル） はぐれザル数頭のうち1頭を捕獲することができた。収穫時期を中心に地域住民によるバクチク等での追い払い活動が行われ、目標値には到達しなかったが令和4年度と比べ被害減少に繋がった。 （カラス） 実施隊銃器所持者の捕獲活動に併せて、追い払いや忌避グッズなどの活用により目標値には到達しなかったが令和4年度と比べ被害は減少した。 （カワウ・サギ類） 追い払いなどが行われたが、銃器所持者は高齢化に伴う減少傾向で捕獲が進まず、水産被害は増加した。 （全体） 実施隊員の高齢化は進んでいるが、令和5年度も新入隊員があり、概ね隊員数の維持ができている。	ここ数年の実績でも、多くのイノシシ・ニホンジカを捕獲していただいておりますが、個体数の増加等により依然として農作物等の被害は発生しているところです。 農作物等の被害の軽減のために、今後も地域住民と連携を図りながら、積極的な捕獲活動を行っていただきたいと考えます。 かつらぎ町農業委員会　会長　里神賢幸	イノシシおよびアライグマの被害額が大幅に減少し、目標に到達した。またシカ、サル、カラスについては、目標値には達しなかったものの、昨年度実績に比べ大きく減少し、被害金額全体での目標達成になったことから、前年度の改善計画に係る取組に一定の成果がみられたと考えられる。 一部の獣種ではまだ、目標値に到達していないものもあるため、引き続き、地域の猟友会員や農業者と連携し、鳥獣の特性に応じた対策（防護柵の設置推進と、シカでは捕獲の一層の強化、カラスは餌場の除去や不要果樹の伐採、囲いわなでの捕獲、サルは有害個体の捕獲の強化を進めて頂きたい。
				イノシシ	962					1,304	910	1,837	−135.3							
				ニホンジカ	121					31	20	131	−909.1							
				サル						11,780	8,250	6,325	154.5							
				アライグマ						6,222	4,360	9,008	−149.6							
		R3	カラス	緊急捕獲事業						4,992	3,490	3,500	99.3							
			カワウ・サギ類	イノシシ	136															
				ニホンジカ	117															
		R4		緊急捕獲事業						39,378	27,560	25,869	114.3	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!			
				イノシシ	314															
				ニホンジカ	180															
		R5		緊急捕獲事業																
				イノシシ	261															
				ニホンジカ	192															
				サル	1															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積（ha） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
有田市鳥獣被害対策協議会	有田市	R3	イノシシ	推進事業					鳥獣被害対策実施隊による生息状況調査及び追い払い活動を実施するとともに、農業者への防護柵設置推進、点検作業などで鳥獣害の低減に努めた。	1,733	1,550	1,730	1.6	0.50	0.45	0.41	180.0	生息状況調査、追い払い活動、鳥獣害対策のアドバイスなどを行ったことにより、農作物を守るため、イノシシをはじめとした鳥獣害対策が大切という意識を農業者に周知させることに繋がった。 また、農業者自らが守るよう、狩猟免許を取得するように促し、猟友会会員の増加にも繋がっていることから、大いに評価できるものである。	有田市における農作物被害は、かつてはヒヨドリやムクドリといった鳥類被害が大半であった。 しかしながら、近年、環境の変化によりイノシシの頭数が増加し、農作物被害も顕著に増加傾向にあった。 実施隊活動により、農業者への鳥獣害対策の意識づけも進むとともに、鳥獣の捕獲頭数も増加していることから大いに評価できるものである。 有田市農業士会会長　南村　昌己	被害金額については、最も被害額の大きいイノシシで達成率が70%未満の状態であるものの、被害面積については、対象獣種で目標達成されており、実施隊による追払い等の活動に一定の効果があったと評価します。 一方でイノシシについては、豚熱からの個体の回復が想定されるため、被害金額の多いイノシシを中心とした、捕獲や防護等の対策を継続・強化していくことが必要です。
			シカ	実施隊による被害、生息調査	200人・日					17	15	17	0.0	0.01	0.01	0.01	#DIV/0!			
			アライグマ	実施隊追払活動	10人・日					47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
			タヌキ							47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
			アナグマ							47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
		R4	ハクビシン	推進事業						47	41	31	266.7	0.01	0.01	0.01	100.0			
			サル	実施隊による被害、生息調査	140人・日					0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
			ヒヨドリ	実施隊追払活動	10人・日					0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
			ムクドリ							0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
			カラス							0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
		R5		推進事業						1,938	1,732	1,871	32.5	0.57	0.50	0.46	160.6			
				実施隊による被害、生息調査	200人・日															
				実施隊追払活動	10人・日															
有田市（有田市鳥獣被害対策協議会）	有田市	R2	イノシシ	緊急捕獲事業	（頭）				鳥獣被害対策実施隊による生息状況調査及び追い払い活動を実施するとともに、農業者への防護柵設置推進、点検作業などで鳥獣害の低減に努めた。	1,733	1,550	1,730	1.6	0.50	0.45	0.41	180.0	本市の鳥獣による農作物被害は、かつてはヒヨドリ・ムクドリを中心にした食害が大半であった。 25年位前からイノシシやアライグマによる被害が出始め、近年では大半を占める状況である。 本計画は、イノシシ、アライグマなどの被害を防止するため策定されているが、関係団体が一丸となって取り組んでいる。 その結果、イノシシによる被害は減少傾向にあるが、さらに強化しなければ、容易に増加傾向に転じることも予測されることから、引き続き、対策の強化に努めていく必要がある。	防護柵の設置拡大、猟友会による捕獲活動など、イノシシによる被害は若干減少傾向にあると感じている。 ただし、これまで出没が少なかった地域でもイノシシの目撃があるなど、より一層の被害防止に努めていく必要がある。 関係団体が引き続き、一丸となって被害防止に取組み、農業者にとって安心・安全で作業ができる環境整備に繋がるよう、大いに期待する。 有田市農業士会会長　南村　昌己	被害金額については、最も被害額の大きいイノシシで達成率が70%未満の状態であるものの、被害面積については、対象獣種で目標達成されており、豚熱の影響もある中で有害捕獲への取組の継続を評価します。 一方でイノシシについては、豚熱からの個体の回復が想定されるため、被害金額の多いイノシシを中心に、アライグマやシカについても捕獲や防護等の対策を継続・強化していくことが必要です。
			シカ	イノシシ	113					17	15	17	0.0	0.01	0.01	0.01	#DIV/0!			
			アライグマ							47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
			タヌキ							47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
		R3	アナグマ	緊急捕獲事業	（頭）					47	42	31	320.0	0.01	0.01	0.01	100.0			
			ハクビシン	イノシシ	116					47	41	31	266.7	0.01	0.01	0.01	100.0			
			サル							0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
			ヒヨドリ							0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
		R4	ムクドリ	緊急捕獲事業	（頭）					0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
			カラス	イノシシ	95					0	0	0	#DIV/0!	0.00	0.00	0.00	#DIV/0!			
										1,938	1,732	1,871	32.5	0.57	0.50	0.46	160.6			
御坊市（御坊市鳥獣害防止対策協議会）	御坊市	R3	イノシシ	緊急捕獲	（頭）				【R3】被害金額が4,390千円（前年比▲2,060千円）、被害面積が1.88ha（前年比▲0.89ha）と前年より減少した。豚熱の影響でイノシシの生息数が減少したことが考えられる。捕獲数も前年227頭から149頭へ大幅に減少した。ニホンジカの捕獲数について前年48頭から86頭へと伸ばす事が出来た結果、被害が減少した。 【R4】基準年と比較し、被害金額が852千円増え4,472千円となった。ニホンジカによる柑橘への被害が報告され、被害金額に大きく反映した。豚熱でイノシシの生息数減少が続き、捕獲数が大幅に減少した。ニホンジカの捕獲数も前年より減少した。 【R5】イノシシ・ニホンザルの捕獲数が増加した。前年より被害面積は横ばいであった。被害金額は基準年と比較し1,786千円増え5,406千円となった。ニホンザルによる柑橘類の被害のほか、ハクビシンによるイチゴの被害が報告され、被害金額を大きく増加させた。	1,550	1,100	412	252.9	1.32	1.10	0.38	427.3	被害状況の調査を生産者からの聞き取りを中心に被害状況を把握したうえで、被害軽減につながるように有害捕獲活動を行う。被害面積は目標値を達成したが、被害金額は未達成である。スイカ、柑橘類、販売単価の高いミニトマト、イチゴへの被害が大きく影響している。 有害捕獲数について、イノシシは年間300頭を目標としたが、豚熱の発生で生息個体が減少し、3年間の捕獲では達成できなかった。ニホンザルは年20頭としたが、捕獲が難しく、年1～5頭の捕獲実績にとどまり被害金額の減少につながらなかった。今後も捕獲に加え、追い払い活動を強化し被害減少につなげたい。ニホンジカは生息数が増え、野菜・果樹への被害が報告されている。年120頭捕獲出来るよう取り組んでいきたい。アライグマ、タヌキ、アナグマ、ハクビシンによる被害報告もよせられており、引き続き有害捕獲の取組みを進め被害金額の減少につなげたい。	今後も農作物の被害調査は、生産者・農協・農業委員会等と協力し、詳しい被害状況を把握できるよう行っていただきたい。有害捕獲の実績については、イノシシは豚熱の影響で捕獲数が減少したものの、ニホンジカは増加傾向にあるようなので、引き続き捕獲に励んでいただきたい。ニホンザルは柑橘類への被害が多く報告されているようなので、捕獲だけでなく追い払いなどを猟友会等と協力し行っていただきたい。また、アライグマ、アナグマが市街地近辺で出没しているので、檻の貸し出しを行う等市の方でも柔軟な対応をお願いしたい。 御坊市農業委員会　会長　和佐　憲道	被害金額については、イノシシで達成率が70%以上であるものの、シカ、サル、アライグマでの被害が増加したことで、未達成の状態です。被害面積については、シカを除き目標達成されており、捕獲、防護等の対策に一定の効果があったと評価します。 しかし、シカ、サル、アライグマについては、被害額に関し大幅に増加傾向にあるため、被害箇所の特定と重点的な対策を行う必要があります。具体的には、地域の農業者や狩猟者と連携した地域ぐるみでの被害防除や、サルに関しては加害群れを対象とした群れ単位の追い払いは捕獲の強化をしていくことが必要です。
			アライグマ	アライグマ	133					330	300	790	−1,533.3	0.10	0.10	0.11	#DIV/0!			
			タヌキ	アナグマ	110					330	300	240	300.0	0.10	0.10	0.05	#DIV/0!			
			アナグマ	タヌキ	73					0	300	970	323.3	0.00	0.10	0.13	130.0			
			カラス	ハクビシン	12					280	200	300	−25.0	0.10	0.10	0.01	#DIV/0!			
			ハクビシン							0	100	60	60.0	0.00	0.05	0.02	40.0			
										3,620	3,250	5,406	−482.7	2.62	2.35	1.72	333.3			
		R4		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	72															
				ニホンジカ	41															
				サル	4															
				アライグマ	98															
				アナグマ	96															
				タヌキ	97															
				ハクビシン	13															
		R5		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	142															
				ニホンジカ	67															
				サル	5															
				アライグマ	84															
				アナグマ	63															
				タヌキ	78															
				ハクビシン	22															
美浜町（美浜町鳥獣害防止対策協議会）	美浜町	R3	イノシシ	緊急捕獲	（頭）				有害鳥獣の捕獲を強化したことにより、農作物の被害をなくすことができた。	66	50	0	412.5				—	平成27年度以降、鳥獣被害防止総合対策事業等を活用し捕獲を強化している。特にイノシシについては、年度を追うごとに捕獲頭数が増え、令和5年度については最大の捕獲数となったこともあり農作物の被害がゼロになった。 今後は、イノシシの捕獲を引き続き強化するほか、アライグマやタヌキなどの小動物による住居や圃場への被害の対策、防護柵の維持・機能強化、遊休農地の刈り払いなど地域ぐるみで環境整備などを実施し、被害を最小限に抑えていきたい。	以前はイノシシ、アライグマ、アナグマなど獣類による被害が多い状況でしたが、猟友会の皆様のご尽力により被害が無くなりました。しかしながら、農家の高齢化等による耕作放棄地の増加により生息範囲の拡大が懸念されることから、捕獲、防御、環境改善の3つの対策を強化していく必要があると思います。 美浜町農業振興研究会　会長　久保博巳	被害金額でいずれの獣種でもの目標達成されているほか、被害額を0に抑えたことで有害捕獲対策の強化が対策の後押しとなっていることを高く評価します。 一方で、周辺市町では、シカやアライグマの被害が増加しているところもあるため、対象獣種にとらわれず、被害の状況を注視していく共に、被害の抑制を継続するためにも、被害防除や環境整備を取り入れるなど、柔軟に対策を講じていくよう検討願います。
			シカ	ニホンジカ	82					138	120	0	766.7				—			
			その他獣類	ニホンジカ	20					60	50	0	600.0				—			
			カラス・スズメ	サル	1					80	60	0	400.0				—			
				アライグマ	11					344	280	0	537.5				—			
				アナグマ	6															
				イタチ	9															
				タヌキ	19															
				ハクビシン	2															
		R4		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	93															
				ニホンジカ	30															
				アライグマ	20															
				アナグマ	18															
				イタチ	8															
				タヌキ	24															
				ハクビシン	7															
		R5		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	121															
				ニホンジカ	28															
				サル	1															
				アライグマ	17															
				アナグマ	4															
				イタチ	5															
				タヌキ	8															
				ハクビシン	1															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積（ha） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
日高町(日高町鳥獣害防止対策協議会)	日高町	R3	イノシシ	緊急捕獲	（頭）				有害捕獲を強化したことにより被害を軽減することができた。	2337	2103	1450	379					イノシシ・ニホンジカについては鳥獣被害防止計画の目標値は達成できたが、ニホンザルについては目標値にすこし届かなかった。今回の実施期間において令和3年度に豚熱が流行したこともあり、イノシシの捕獲数や被害はかなり抑えられている。ニホンザルについては農作物被害はあるが、群れの目撃は少なくなっている。 前回から引き続きニホンジカの捕獲数は毎年増加しているが、猟友会や有害捕獲者による捕獲、有害鳥獣の出没の多い地域では防護柵の設置が進んでいるため被害も抑えさえれている。	年々有害鳥獣の出没が増加してきており、特にシカが増加傾向である。被害の多い地域では農業者の被害防止意識も高く防護柵の設置も多くなってきている。農業者による防護対策や有害従事者による捕獲、関係機関との連携により被害軽減に努めていただきたい。 日高町農業士会　会長　白井　雄太	被害金額で目標達成されており、有害捕獲対策の強化が一定の効果を上げていることを評価します。 一方で、対象町では、サルの被害額が高く推移し目標値に届いていないことから、有害サルを対象とした防護・捕獲対策が必要です。また、シカについては、対象獣種にとらわれず、被害の状況を注視していくと共に、被害の抑制を継続するためにも、被害防除や環境整備を取り入れるなど、柔軟に対策を講じていくよう検討願います。
			シカ	イノシシ	126					72	64	21	638							
			サル	ニホンジカ	377					5155	4603	4791	66							
				サル	90					7564	6770	6262	164							
				アライグマ	28															
				アナグマ	44															
				タヌキ	28															
		R4		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	181															
				ニホンジカ	415															
				サル	119															
				アライグマ	26															
				アナグマ	86															
				タヌキ	45															
		R5		緊急捕獲	（頭）															
				イノシシ	151															
				ニホンジカ	498															
				サル	48															
				アライグマ	40															
				アナグマ	50															
				タヌキ	41															
田辺市鳥獣害対策協議会	田辺市	R3	イノシシ	推進事業					・　田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追払い活動により、有害鳥獣による農作物被害の防止を図った。令和3年度は計36回、延べ320人の隊員による活動を実施し、サル1頭、イノシシ3頭、シカ2頭の捕獲実績があった。また、ICT技術を活用した捕獲補助機器（ほかパト）を導入し、わなの見回りの負担軽減と捕獲効率の向上を図った。 上記事業に取り組むことにより、田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて被害防止計画の基準年（R元年）においては34,729千円であった被害額が、令和3年度には32,989千円まで減少する結果となった。 ・田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追い払い活動により、有害鳥獣による農作物被害の防止を図った。令和4年度は計34回、延べ277人の隊員による活動を実施し、サル2頭、イノシシ1頭、シカ2頭の捕獲実績があった。 上記の活動と田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて令和4年度の被害額は31,277千円となり、前年比で1,712千円の被害額減少となった。 ・田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追い払い活動により、有害鳥獣による農作物被害の防止を図った。令和5年度は計40回、延べ300人の隊員による活動を実施し、サル1頭、イノシシ1頭、シカ1頭の捕獲実績があった。 上記の活動と田辺市の有害鳥獣捕獲事業の効果と合わせて令和5年度の被害額は31,274千円となり、前年とほぼ同額の被害となった。	5,506	4,500	2,348	313.9	6.20	5.00	1.31	407.5	田辺市鳥獣被害対策実施隊による捕獲・追い払い活動を実施したことにより、対策が難しいサルを中心に被害を減少させることができた。しかし、銃隊員と比べ、わな隊員の割合が増加している中で、現在の活動内容が銃隊員中心のものとなっており、銃隊員への負担が大きくなっている。今後は銃隊員とわな隊員の役割の明確化や、担当地区の割り振りなど、より効果的な活動内容にしていく必要がある。 結果として、被害金額の目標値が基準年（令和3年）の約17%減の設定であったが、令和5年度には31,274千円と約10%の減少にとどまった。捕獲従事者が減少している中で、捕獲に係る負担の軽減や・捕獲効率の向上を図るため、ICT技術を積極的に取り入れた被害防止活動に取り組んでいく。	田辺市鳥獣被害対策実施隊活動による捕獲や追い払い等の鳥獣被害防止活動を実施した地域では被害減少の声があり、活動の成果がみられたと考えられる。今後も継続して捕獲や追い払い等を実施し、地域全体で有害鳥獣対策に取り組んでいくことが重要になると考える。 田辺市農業委員会　会長　山﨑　清弘	被害金額は達成率が70%未満となったが、被害面積のみ目標がほぼ達成となり、基準年からの減少が確認できる。また、追い払い活動や労務負担軽減と効率化を考慮したICTを利用した捕獲方法を採用するなど、被害対策に一定の効果はあったと評価している。 一方でシカや、アライグマを始めとする中型獣類の被害が増加傾向にあり、獣類に適した防護柵の設置と点検を行う他、中型獣類は各種わなでの捕獲を積極的に進めるなど、被害軽減に向けた対策をさらに充実していくことが必要です。
			シカ	実施隊捕獲活動経費	156人・日					8,029	6,600	9,794	−123.5	11.40	9.30	5.40	285.7			
			サル	実施隊追払い活動経費	156人・日					14,404	12,000	11,328	128.0	6.00	5.00	5.15	85.0			
			アライグマ	ICT等新技術の活用	一式					802	660	1,105	−213.4	0.70	0.60	0.43	270.0			
			アナグマ	（ほかパト導入経費（親機1台＋子機30台、設置費、通信費含））						100	50	660	−1,120.0	0.10	0.10	0.37	#DIV/0!			
			ハクビシン							47	30	197	−882.4	0.20	0.20	0.14	#DIV/0!			
			その他獣類							310	310	387	#DIV/0!	0.80	0.80	0.26	#DIV/0!			
		R4	カラス	推進事業						2,977	2,429	2,925	9.5	0.70	0.50	0.84	−70.0			
			ヒヨドリ	実施隊捕獲活動経費	137人・日					2,538	2,071	2,515	4.9	0.70	0.50	0.80	−50.0			
			キジ	実施隊追払い活動経費	140人・日					16	16	15	#DIV/0!	0.03	0.03	0.01	#DIV/0!			
			カワウ・ウミウ							5,000	4,100	5,000	0.0				#DIV/0!			
										39,729	32,766	36,274	49.6	26.8	22.0	14.7	252.5			
		R5		推進事業																
				実施隊捕獲活動経費	131人・日															
				実施隊追払い活動経費	169人・日															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積（ha） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
田辺市（田辺市鳥獣害対策協議会）	田辺市	R3	イノシシ	緊急捕獲事業	（頭）				猟友会の協力の下、有害鳥獣捕獲に取り組んだ。 イノシシについては、豚熱の影響による個体数の減少とともに、被害が減少し、捕獲頭数も減少した。 ニホンジカについては、捕獲頭数が減少し、被害金額が増加している。 ニホンザルについては、有害捕獲活動に加えて県が実施した集団捕獲（令和4年度）の効果もあり、被害の減少につながっている。	5,506	4,500	2,348	313.9	6.20	5.00	1.31	407.5	猟友会の協力の下、有害捕獲や管理捕獲を実施した。 またアライグマについてはJAの協力の下、箱わなの貸出し及び捕獲を実施した。捕獲従事者数は、農家を中心としてわな免許の取得人数が増加している一方、銃猟従事者については新規の免許取得者が少なく、全体的には減少傾向にある。 農作物の被害の内、ニホンザルに関しては防護柵での対策が難しいため、有害捕獲や実施隊活動による追い払いを中心に対策し、目標を達成した。また、イノシシに関しては有害捕獲に加え、豚熱による個体数の減少が影響し、被害金額・被害面積ともに激減した。一方で、ニホンジカや、アライグマ・アナグマ・ハクビシン等の小型獣類に関しては被害が増加した。これは捕獲従事者の減少や、農繁期における捕獲圧の低下が原因の一つであると考えられる。 結果として、被害金額の目標値が基準年（令和3年）の約17%減の設定であったが、令和5年度には31,274千円と約10%の減少にとどまった。しかし、その一方で被害面積は概ね目標値を達成しており、このことから、被害が特定の農地に集中していると考えられるため、今後はより一層、市・猟友会・地域住民が一体となり、農地に出現する有害個体の確実な捕獲に取り組む必要がある。	被害金額は目標値に至っていないものの、被害面積は概ね目標を達成しており、防止計画の実施については一定の効果を上げているものと考える。 田辺市農業委員会　会長　山﨑　清弘	被害金額は達成率が70%未満となったが、被害面積のみ目標がほぼ達成となり、基準年からの減少が確認できる。ICTを利用した捕獲方法を採用するなど、被害対策に一定の効果はあったと評価している。 一方でシカや、アライグマを始めとする中型獣類の被害が増加傾向にある。獣類に適した防護柵の設置と点検を行う他、中型獣類は各種わなでの捕獲を積極的に進めるなど、被害軽減に向けた対策をさらに充実していくことが必要です。
				イノシシ	1375					8,029	6,600	9,794	−123.5	11.40	9.30	5.40	285.7			
				シカ	2616					14,404	12,000	11,328	128.0	6.00	5.00	5.15	85.0			
				サル	278					802	660	1,105	−213.4	0.70	0.60	0.43	270.0			
				アライグマ	103					100	50	660	−1,120.0	0.10	0.10	0.37	#DIV/0!			
				ハクビシン	9					47	30	197	−882.4	0.20	0.20	0.14	#DIV/0!			
				カラス類	425					310	310	387	#DIV/0!	0.80	0.80	0.26	#DIV/0!			
		R4	ヒヨドリ	緊急捕獲事業	（頭）					2,977	2,429	2,925	9.5	0.70	0.50	0.84	−70.0			
			キジ	イノシシ	486					2,538	2,071	2,515	4.9	0.70	0.50	0.80	−50.0			
			カワウ・ウミウ	シカ	2203					16	16	15	#DIV/0!	0.03	0.03	0.01	#DIV/0!			
				サル	268					5,000	4,100	5,000	0.0				#DIV/0!			
				アライグマ	62					39,729	32,766	36,274	49.6	26.8	22.0	14.7	252.5			
				ハクビシン	18															
				カラス類	599															
		R5		緊急捕獲事業																
				イノシシ	823															
				シカ	2146															
				サル	124															
				アライグマ	53															
				ハクビシン	11															
				カラス類	270															
白浜町鳥獣被害対策協議会	白浜町	R3	イノシシ	推進事業					被害の状況を勘案し、計画的に実施する事により、獣類からの被害の軽減を図ることが出来た。	810	704	442	347.2	2.13	1.85	1.20	332.1	白浜町全域で、緊急捕獲事業を活用しており、地元猟友会員が中心となって、ニホンジカやイノシシに対しては主にわなでの捕獲を実施し、農作物の被害軽減が図られている。これに加えて更に農作物への被害対策を継続・強化する上で、実施隊による、追払い活動や捕獲活動も組み入れることにより、一層の被害軽減が図られた。 今後も緊急捕獲事業と併せて実施する事で、引き続き農作物被害の軽減を図っていきたい。	実施隊による猟銃や猟犬を使用しての巻き狩りを実施する事により、集落に獣類を寄せ付けない効果もある事から、引き続き定期的に実施隊活動を実施する必要がある。 和歌山県　鳥獣保護管理員　髙垣多助	被害金額および被害面積は目標を達成しており、実施隊活動による追い払いや捕獲活動等により、被害対策に一定の効果があったと評価します。 しかし、アライグマについては依然として高止まり傾向にあり、近々市町村についても被害が増えている。電気柵と併用の防護柵の設置や侵入防止にかかる点検、残渣の適正な処理等など、アライグマが活動しにくい環境づくりを構築し、積極的に有害捕獲を行うなど、獣種に応じた対策を強化していくことが必要です。
				（実施無し）						1,560	1,294	1,175	144.7	2.33	1.90	1.29	241.9			
										310	257	244	124.5	0.36	0.30	0.24	200.0			
										160	116	154	13.6	0.05	0.04	0.07	−200.0			
										220	220	24	#DIV/0!	0.16	0.16	0.01	#DIV/0!			
										25	25	30	#DIV/0!	0.02	0.02	0.01	#DIV/0!			
		R4	その他獣類	推進事業						53	53	110	#DIV/0!	0.05	0.05	0.06	#DIV/0!			
				実施隊活動（有害捕獲）	86人・日					3,138	2,669	2,179	204.5	5.10	4.32	2.88	284.6			
				実施隊活動（追払い）	39人・日															
		R5		推進事業																
				実施隊活動（有害捕獲）	15人・日															
				実施隊活動（追払い）	55人・日															
白浜町（白浜町鳥獣被害対策協議会）	白浜町	R3	イノシシ	緊急捕獲事業	（頭）				計画捕獲数（イノシシ1,740頭/3年、ニホンジカ3,810頭/3年、ニホンザル270頭/3年、アライグマ900頭/3年）と左記捕獲実績を比較すると、いずれも計画捕獲数には至らないものの、イノシシ（豚熱による生息数の減少による捕獲数の減少）以外の鳥獣については、捕獲数もほぼ横ばいに推移し、被害額、被害面積とも減少した。	810	704	442	347.2	2.13	1.85	1.20	332.1	猟銃所持者の減少が背景にあるため、銃猟による捕獲や追い払い活動は、年々減少しているが、わな猟での捕獲を継続・強化しており、このことが農作物被害を大きく減少させる一因になっている。また、捕獲行為のみならずくくりわなやはこわなを適切に設置させることも指導しており、シカを除いて捕獲数も年々増加傾向である。 一方で、イノシシは豚熱の収束により、生息数は増加している事が予想されるため、引き続き捕獲の継続と強化を図る必要がある。また、ニホンジカについても、令和5年度を除き、1，000頭前後を捕獲しているものの、生息数は減少に転じたとは考えにくいため、今後も積極的に捕獲していきたい。	効果的に有害鳥獣の捕獲も出来ている事から、引き続き農家、猟友会、町とで連携を図りながら、有害鳥獣による生活環境、農林水産業または生態系に係る被害の防止及び有害鳥獣の捕獲を実施して頂きたい。 和歌山県　鳥獣保護管理員　髙垣多助	被害金額および被害面積は目標を達成しており、有害捕獲活動が、被害対策に対して一定の効果をもらたした評価します。 しかし、アライグマについては依然として高止まり傾向にあり、近々市町村についても被害が増えている。電気柵と併用の防護柵の設置や侵入防止にかかる点検、残渣の適正な処理等など、アライグマが活動しにくい環境づくりを構築し、積極的に有害捕獲を行うなど、獣種に応じた対策を強化していくことが必要です。
				イノシシ	284					1,560	1,294	1,175	144.7	2.33	1.90	1.29	241.9			
				ニホンジカ	1032					310	257	244	124.5	0.36	0.30	0.24	200.0			
				サル	45					160	116	154	13.6	0.05	0.04	0.07	−200.0			
				アライグマ	103					220	220	24	#DIV/0!	0.16	0.16	0.01	#DIV/0!			
										25	25	30	#DIV/0!	0.02	0.02	0.01	#DIV/0!			
		R4	その他獣類	緊急捕獲事業	（頭）					53	53	110	#DIV/0!	0.05	0.05	0.06	#DIV/0!			
				イノシシ	165					3,138	2,669	2,179	204.5	5.10	4.32	2.88	284.6			
				ニホンジカ	830															
				サル	25															
				アライグマ	121															
		R5		緊急捕獲事業	（頭）															
				イノシシ	413															
				ニホンジカ	663															
				サル	39															
				アライグマ	103															
すさみ町（すさみ町鳥獣被害対策協議会）	すさみ町	R3	イノシシ	緊急捕獲事業	（頭）				・猟友会と連携を密にし、有害鳥獣捕獲を実施し、周辺農地の被害低減に努めた。イノシシによる農作物被害の減少は、有害捕獲のほか豚熱の影響も一部考えられる。 サルの被害の多い山間部に、わなの設置を増やし捕獲強化を行ったことも、被害抑制の一因となった。	61	57	3	1,450.0	0.56	0.52	0.01	1,375.0	捕獲事業等により、ニホンジカによる被害が逓減したが、サルの被害が増大した。また、アライグマ含む小型鳥獣による被害も増えている。イノシシについては捕獲活動のほかに豚熱の影響により、捕獲数及び被害が大きく減少した。鳥獣被害対策実施隊による見回り及び被害調査の強化を図り、今後も捕獲を行うことで被害軽減につなげてくことが必要と思われる。	捕獲事業による捕獲数も増えており、その結果農作物被害の軽減につながっているように思う。また、実施隊に対して檻の貸し出しを行うなど、積極的に捕獲活動に取り組んでいる様子。引き続き取り組んでもらいたい。 すさみ町農業委員会　会長　髙尾通雄	被害金額及び被害面積共に目標が達成されており、有害捕獲対策の強化が対策の後押しとなっていることを高く評価します。 一方でニホンザルについては、他獣種に比べ被害額や面積が大きく増加する傾向にあるため、加害レベルとその行動範囲を特定し、防護柵の設置や集中的な追い払い・生息環境管理の他、対象群れを特定した個体数管理を行うなど、獣種に応じた抜本的な被害対策を進めていくことが必要です。
				イノシシ	65					22	19	1	700.0	0.06	0.05	0.01	500.0			
				シカ	534					24	20	83	−1,475.0	0.07	0.05	0.12	−250.0			
				サル	58					2	1	1	100.0	0.01	0.01	0.01	#DIV/0!			
				アライグマ	26					1	1	1	#DIV/0!	0.01	0.01	0.01	#DIV/0!			
				ハクビシン						0	0	1	#DIV/0!	0.00	0.00	0.01	#DIV/0!			
				タヌキ						0	0	1	#DIV/0!	0.00	0.00	0.01	#DIV/0!			
		R4	アナグマ	緊急捕獲事業	（頭）					110	98	91	158.3	0.71	0.64	0.18	757.1			
				イノシシ	41															
				ニホンジカ	561															
				サル	65															
				アライグマ	68															
		R5		緊急捕獲事業	（頭）															
				イノシシ	14															
				ニホンジカ	492															
				サル	93															
				アライグマ	100															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率(%)	被害面積(ha) 現状値	目標値	実績値	達成率(%)	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
新宮市鳥獣被害防止対策協議会	新宮市	R3	イノシシ シカ サル アライグマ スズメ カラス	(実施無し)	－				防護柵を計画的に設置することで、野生獣類の侵入を防止できたことにより、対象地区での農作物被害が軽減できた。	740 1,619 1,062 43 33 165 66 97	629 1,376 903 37 33 165 66 97	248 2,672 1,517 42 21 151 35 127	443.2 −433.3 −286.2 16.7 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!				#DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!	市では有害捕獲活動を行っており、イノシシについては豚熱による影響もあって捕獲個体数の低下に伴う被害の減少があるが、シカ、サルについては猟友会を中心とした有害個体を捕獲し、被害軽減を図っている。 一方で、これまで被害があまり確認されていなかったエリアについては防護柵等の施工がなされておらず、被害が確認されたことから、対策強化を目的に本事業を活用した。整備後の対象地域での被害は確認されていないため、事業の実施による被害が軽減に一定の効果があると考えられる。しかし、防護柵の未整備地域においては、鳥獣による被害が存在し、被害が確認されるため、市での有害個体の捕獲活動と併せて、市の電気柵設置補助金等の被害防除にかかる支援策の活用を促し、生産者による自己防衛の推進・強化を図る必要があると考える。	熊野川地区では、電気柵の設置が進んではいるが、まだ多数の被害が出ている。耕作放棄地の農地の所有者には鳥獣の住処にもなる可能性もあるので、草刈りのお願いも行っている。銃を使用できない所では箱わななくくりわなの設置等を行い、鳥獣の個体数減少に努めると共に、追払い花火等を使用するなどの対策も進めている。 能城山本区長　下阪　殖保	被害金額としてはイノシシで70%以上を達成しているものの、シカやサルについては、目標値を大きく上回っているため、改善計画の作成が必要と考えられます。 被害をもたらしている主要な獣種については、次期の計画に向けて基準年および目標年の見直しを検討し、早期の被害軽減にむけて、捕獲の強化に加え、被害の実態把握と状況に応じた適切な対策を実施していくことが必要と考えられます。 今回は防護柵を導入していることから、他の農地も含め、鳥獣類への侵入に対し必要箇所の柵の導入と強化、実施後の点検を図り、適切に運用いただくことを望みます。
		R4	カモ ヒヨドリ	(実施無し)	－					3,825	3,306	4,813	−190.4							
		R5		整備事業 防護柵（WM）の整備	(m) 750	新宮市鳥獣対策協議会	R6.3.25													
新宮市（新宮市鳥獣被害防止対策協議会）	新宮市	R3	イノシシ シカ サル アライグマ スズメ カラス	緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	(頭) 82 207 29				・猟友会の協力の下、有害鳥獣捕獲に取り組んだ。 イノシシについては、豚熱の影響による個体数の減少とともに、被害が減少し、捕獲頭数も減少した。 ニホンジカについては、207頭、サルについては29頭を捕獲したが、被害が大きく減っていないため引き続き、有害個体の捕獲の継続・強化が必要。	740 1,619 1,062 43 33 165 66 97	629 1,376 903 37 33 165 66 97	248 2,672 1,517 42 21 151 35 127	443.2 −433.3 −286.2 16.7 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!				#DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!	イノシシについては豚熱による影響もあって捕獲個体数が激減しており、被害が減少している。シカについては254頭～309頭、サルについては25～59頭を年間で捕獲しているが、これまで被害を受けていなかったエリアで新たな被害が確認されてきており、里山付近での耕作者が減り、生息圏のバランスが崩れていることが原因の一つと推測される。山際では防除策をしっかりできていたが、これまで被害が出ていなかったエリアについては電気柵等の施工がなされていないことから、被害拡大につながっていると考える。今後は、被害が確認される農地を中心に有害個体の捕獲活動に取り組んでいくほか、併せて、被害の抑制のために市の電気柵設置補助金等の支援策の活用を促し、生産者による自己防衛の推進・強化が必要と考える。	熊野川地区では、電気柵の設置が進んではいるが、まだ多数の被害が出ている。耕作放棄地の農地の所有者には鳥獣の住処にもなる可能性もあるので、草刈りのお願いも行っている。銃を使用できない所では箱わななくくりわなの設置等を行い、鳥獣の個体数減少に努めると共に、追払い花火等を使用するなどの対策も進めている。 能城山本区長　下阪　殖保	被害金額としてはイノシシで70%以上を達成しているものの、シカやサルについては、目標値を大きく上回っているため、改善計画の作成が必要と考えられます。 被害をもたらしている主要な獣種については、次期の計画に向けて基準年および目標年の見直しを検討し、被害軽減にむけて、捕獲の強化に加え、被害の実態把握と状況に応じた適切な対策を実施していくことが必要と考えられます。
		R4	カモ ヒヨドリ	緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	(頭) 28 269 59				・猟友会の協力の下、有害鳥獣捕獲に取り組んだ。 イノシシについては、豚熱の影響による個体数の減少とともに、被害が減少し、捕獲頭数も減少した。 ニホンジカについては、269頭、サルについては59頭と、昨年より捕獲頭数は増えたが、被害が確認されていることから、引き続き有害個体の捕獲の継続・強化が必要。	3,825	3,306	4,813	−190.4								
		R5		緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	(頭) 22 309 25				・猟友会の協力の下、有害鳥獣捕獲に取り組んだ。 イノシシについては、豚熱の影響による個体数の減少とともに、被害が減少し、捕獲頭数も減少した。 ニホンジカについては、309頭と昨年より捕獲数が増加した。サルについては25頭の捕獲となった。依然被害が確認されており、捕獲圧の強化に取り組む必要がある。											
太地町鳥獣害防止対策協議会	太地町	R3	シカ イノシシ サル アライグマ	推進事業 箱わなの購入	5基				箱わなの購入により、対象地区での必要箇所数での捕獲を試みるも、当該年度での捕獲には至らなかった。	1,182 110 8 57 10 0 49 130	970 80 5 40 5 0 40 130	998 69 6 40 6 0 41 77	86.8 136.7 66.7 100.0 80.0 #DIV/0! 88.9 #DIV/0!				#DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!	被害金額としては、有害捕獲事業や町単独補助事業である侵入防護柵の設置事業等を中心とした対策を講じているが、農作物の単価上昇によって増加しているほか、農業者の高齢化や鳥獣被害を受けて耕作を止める農業者が増えている状況にある。 箱わな購入後、事前に要望のあった森浦地区に1基、太地地区に2基を設置したほか、臨時対応を含む町内全域対応に2基分を計画に加え、有害鳥獣の捕獲を実施した。令和3年度の捕獲頭数は0頭となったが、森浦地区、太地地区いずれも設置した周辺での目撃情報が続き、被害の減少に至っていないため、被害状況の把握と設置場所や管理の検討、運用状況を適宜見直すなどし、継続して有害鳥獣の捕獲を実施していく。	有害捕獲事業などによる捕獲の効果は大きいと考えていますが依然、町内全域において、シカ、イノシシ、サル、アライグマ、アナグマによる農作物被害が見られます。主な農作物被害はポンカンを中心とした果樹、サツマイモなどの野菜類であります。近年の傾向としては収穫期だけでなく、シカの樹木への食害やイノシシによるサツマイモ畑の掘り返しなどの被害が出ていることから、鳥獣被害防止総合対策事業の継続と更なる対策の強化を望みます。 太地町果樹研究会　会長　東　勝人	被害金額全体としてはサルを除く獣種で70%以上を達成しており、捕獲活動による被害軽減に一定の効果があったと評価致します。 引き続き、被害額の大きいイノシシやシカへの被害対策を緩めないよう取組願います。 一方で、ニホンザルの被害が農作物被害に加えて生活被害にまで及んでいるなど、より被害が深刻化する可能性もあるため、行動域調査と併せた有害群れの捕獲を検討いただくなど、獣種別に適切な対策を進めて頂く事が必要です。
		R4	カモ タヌキ カラス その他(ヒヨド	(実施無し)	－					130 1,546	130 1,270	77 1,237	#DIV/0! 112.0				#DIV/0! #DIV/0!			
		R5		(実施無し)	－															
太地町（太地町鳥獣害防止対策協議会	太地町	R3	シカ イノシシ サル アライグマ アナグマ タヌキ	緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	(頭) 22 179 0 19				・イノシシ・シカ・サル・アライグマ合計220頭を捕獲。前年と比較して被害が減少した。 ・イノシシ・シカ・サル・アライグマ合計214頭を捕獲。前年と比較して被害が減少した。 ・イノシシ・シカ・サル・アライグマ合計140頭を捕獲。前年と比較して農作物の単価上昇によって、被害金額が増加した。被害量は減少している。	1,182 110 8 57 10 0 49 130	970 80 5 40 5 0 40 130	998 69 6 40 6 0 41 77	86.8 136.7 66.7 100.0 80.0 #DIV/0! 88.9 #DIV/0!				#DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0!	被害金額としては、有害捕獲事業や町単独補助事業である侵入防護柵の設置事業等を中心とした対策を講じている。一方で、農作物の単価上昇によって農作物被害額の増加しているほか、農業者の高齢化や鳥獣被害を受けて耕作を辞める農業者が増えている状況にある。 獣種別にみると、イノシシ、シカ、サルについては、民家周辺への出没回数が増加しており農作物被害に加えて生活被害も出るようになっていることから、今後は、現状を十分に把握し、鳥獣による被害軽減にむけて的確な対策を講じていく必要があると考える。	有害捕獲事業などによる捕獲の効果は大きいと考えていますが依然、町内全域において、シカ、イノシシ、サル、アライグマ、アナグマによる農作物被害が見られます。主な農作物被害はポンカンを中心とした果樹、サツマイモなどの野菜類であります。近年の傾向としては収穫期だけでなく、シカの樹木への食害やイノシシによるサツマイモ畑の掘り返しなどの被害が出ていることから、鳥獣被害防止総合対策事業の継続と更なる対策の強化を望みます。 太地町果樹研究会　会長　東　勝人	被害金額全体としてはサルを除く獣種で70%以上を達成しており、捕獲活動による被害軽減に一定の効果があったと評価致します。 引き続き、被害額の大きいイノシシやシカへの被害対策を緩めないよう取組願います。 一方で、ニホンザルの被害が農作物被害に加えて生活被害にまで及んでいるなど、より被害が深刻化する可能性もあるため、行動域調査と併せた有害群れの捕獲を検討いただくなど、獣種別に適切な対策を進めて頂く事が必要です。
		R4	カラス その他(ヒヨド	緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	(頭) 7 192 10 5					130 1,546	130 1,270	77 1,237	#DIV/0! 112.0				#DIV/0! #DIV/0!			
		R5		緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	(頭) 16 114 6 4															

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	被害面積（ha） 現状値	目標値	実績値	達成率（%）	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
#5 古座川町（古座川町鳥獣害防止対策協議会）	古座川町	R3	イノシシ シカ サル アライグマ その他獣類 カワウ	緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	（頭） 54 673 42 1				・左記獣種の合計770頭を捕獲。有害捕獲により被害の軽減及び防止に努めることができた。 ・左記獣種の合計723頭を捕獲。イノシシは町内豚熱蔓延の影響により捕獲無し。シカは横ばい、サルの捕獲数が増加。	302 585 610 10 30 900 2,437	272 526 546 9 30 810 2,193	36 581 749 22 37 840 2,265	886.7 6.8 −217.2 −1,200.0 #DIV/0! 66.7 70.5	0.79 0.43 0.53 0.01 0.03 1.79	0.71 0.38 0.47 0.01 0.03 1.60	0.03 0.48 0.56 0.02 0.05 1.14	950.0 −100.0 −50.0 #DIV/0! #DIV/0! #DIV/0! 342.1	本計画の期間内におけるシカの捕獲頭数や被害額は横ばいである。イノシシは豚熱蔓延の影響により、令和3年度と4年度は被害が激減しており、捕獲も0である。サルに関する目撃情報は町内全域からであり、被害も増加傾向にある。しかし、捕獲頭数も上がっており、場所によっては被害に至るまでの予防措置としての効果も十分発揮できた。鮎に対するカワウの被害は、毎年川の状況により大きく変動するものである。	古座川町は96%が森林という地形もあり、中山間地域を中心に鳥獣による被害が多い地域である。そうした状況の中で、個体数の削減、農作物の被害軽減に対して、鳥獣被害防止総合支援事業を実施することによる効果は非常に大きいと考えられる。今後も高齢化が進むこの町で安心して農業を営むことができる状況を確保することは大変重要で、野生動物による農作物被害対策は町が抱える大きな課題である。このことから、同事業を活用した有効な被害軽減をいっそう推進してほしい。 鳥獣保護員　瀧本　守	イノシシノ被害軽減について70%以上の達成が見られているが、豚熱による自然減も一因とあるため、楽観はできない状況です。また、ニホンザルについては、現状の被害額や面積の減少はないものの、有害群れを特定し群れ単位で捕獲に取り組むなど、獣種に応じた適切な捕獲により、今後の被害軽減に期待したいと思います。 一方で、シカによる農作物被害が大きく、減少傾向がみられないことから、捕獲の強化の他、農地周辺での防護柵の設置・点検・強化など、総合的な対策を進めてもらう事が必要です。
		R4		緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	（頭） 0 656 57 10				・左記獣種の合計759頭を捕獲。イノシシの目撃や被害は若干増。サルの個体数は増加傾向。有害捕獲により被害防止に努めた。											
		R5		緊急捕獲事業 イノシシ ニホンジカ サル アライグマ	（頭） 6 618 114 21															
北山村（北山村鳥獣害防止対策協議会）	北山村	R3	シカ イノシシ サル カワウ	緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	（頭） 5 54 5				シカ・イノシシ・サルについては、合計64頭を捕獲。イノシシについては豚コレラの影響もあり被害は減少した。サルについての被害は微減したが、シカの被害は拡大しており、さらに捕獲圧を高める必要がある。 ・ シカ・イノシシ・サル合計63頭を捕獲。イノシシについては豚コレラの影響もあり被害は減少したが、シカとサルの被害は拡大しており、さらに捕獲圧を高める必要がある。 ・ シカ・イノシシ・サル合計58頭を捕獲。イノシシについては豚コレラの影響もあり個体数自体減ってきており被害の拡大は抑制された。しかし、シカとサルの被害は横ばい傾向であり、さらに捕獲圧を高める必要がある。	19 141 196 30 386	19 113 157 24 313	79 33 199 30 341	#DIV/0! 385.7 −7.7 0.0 61.6	0.03 0.05 0.06 0.14	0.03 0.04 0.05 0.12	0.04 0.01 0.07 0.12	#DIV/0! 400.0 −83.3 #DIV/0! 90.9	イノシシについては豚コレラの影響もあり被害金額・被害面積共に100%以上の達成率と被害は大幅に減少した。 しかしながら、シカとサルによる被害拡大は止まらず、被害金額・被害面積共に達成率はマイナスとなった。これは猟友会員の高齢化や銃保持者の減少、シカとサルの出没回数の増加、村の主要な商品作物であるじゃばらへの被害が増加したことによるもので、全体としての被害金額も増加させた。今後はシカとサルを重点的に対策する必要がある。 また、村単独事業による防除網の設置等を行っており、防除網により防護された農地については効果的に被害を防いでいるが、まだ防除網を未設置の農地も多いので、周知を行い設置を促していきたい。また、現状を十分に把握することで的確な対策が実施できるよう努めたい。	北山村は93%が森林の中山間地域であるため、鳥獣による被害が村内全域で多発しています。このような被害を防止するためにも鳥獣被害防止対策事業は非常に大きな効果があると考えています。 しかし、イノシシの被害は減少してきたものの、シカとサルについては頻繁に出没してきており、村の特産物であるじゃばらへの被害も増加しているため、事業の継続と対策の強化を希望します。 有害鳥獣による農作物被害は中山間地域の重要な問題であるため今後も同事業を継続することで、より一層の被害軽減を推進してほしいと考えています。 北山村じゃばら生産協同組合長　東幸則	イノシシノ被害軽減について70%以上の達成が見られているが、豚熱による自然減も一因とあるため、楽観はできない状況です。 一方で、シカおよびサルについての被害が金額、面積共に増加傾向にあるため、捕獲のみならず、防護柵の設置や点検・強化の他、緩衝帯の設置・不要果樹の伐採など、獣害に強い総合的な対策を進めていくことが重要と考えます。 県では、防護柵の設置にかかる事業の他、アドバイザー研修も行っているため、住民や関係者の参画を通じ、対策への意識や行動をさらに高めていただくことが必要と思われます。
		R4		緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	（頭） 6 53 4															
		R5		緊急捕獲事業 イノシシ シカ サル	（頭） 9 44 5															
和歌山県	和歌山県	R5	イノシシ シカ サル アライグマ等	・ニホンザル効率的捕獲のための行動調査 ・わな捕獲技術向上研修 初級研修 中級研修 実践研修 現地型実践研修 ・銃猟捕獲技術向上研修 ・和歌山県農作物鳥獣害アドバイザー研修 ・狩猟の魅力研修 体験研修 ・和歌山県鳥獣害対策研修	一式 3回 4回 5回 8回 4回 6回 5回 1回				・サルはGPSによる生息状況・行動調査を行い、その結果を市町村に共有し、有害捕獲の推進等に活用した。 ・わな捕獲技術向上研修では、71名（初級研修29名、中級研修29名、実践研修5名、現地実践型研修8名）が捕獲の基礎知識や技術を習得した。 ・銃猟捕獲技術研修では、15名が安全な狩猟・有害捕獲技術を習得した。 ・和歌山県農作物鳥獣害対策アドバイザー研修では、24名の専門的な知識を有する人材を育成した。 ・狩猟の魅力研修では体験研修に5回20名の参加があり、狩猟現場における活動方法やを伝え、新規狩猟者を確保・育成した。 鳥獣害対策研修には、「地域における獣害対策」・「シカ対策研究事例」の報告が有り、県猟友会、関係市町、県関係課から計15名が出席し、獣害対策や地域活性について知見を深めた。												

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率（%）	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 （被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。）
										被害金額（千円）				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率（%）	現状値	目標値	実績値	達成率（%）			

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5　都道府県による総合的評価

県全域において有害捕獲、防護柵の整備、捕獲の担い手確保・育成に取り組んできた結果、令和5年度の被害額は2.49億円であり、平成27年度3.43億円からは減少傾向にある。
その大きな要因であるイノシシの被害額の急激な減少はイノシシの豚熱蔓延による影響が大きいが、その終息と共に急激な増加に転じる恐れから今後の動向を注視し、個体数回復に対する被害対策とりわけ捕獲強化を進める必要がある。
また、県では令和3年度末に令和4～8年度を対象期間としたイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルに対する第二種特定鳥獣管理計画を策定しており、各鳥獣種別の動向を踏まえ、捕獲の推進を図っているところである。
そのうち、ニホンジカについては、特にわなの成獣捕獲に対する市町村での有害捕獲を促進させている他、ニホンザルについては有害群れの行動範囲の特定化を本事業で活用し、後の群れ単位での捕獲を行うなど、県を上げて被害の軽減を図っている。
今後も、各地域の状況を踏まえながら、市町村や関係団体と連携し、捕獲や防護対策を着実に実施・推進し、捕獲を担う者の確保と育成、実施隊活動の推進等も併せて行うことにより、ソフト・ハード両面から被害軽減対策を推進していく。